

平成 2 8 年度事業報告書

平成 28 年 4 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日

公益財団法人 全国青少年教化協議会

事業報告目次

I 教化事業（公益目的事業1）

- 1 青少年健全育成推進事業 P. 1～P. 4
- 2 公益活動推進事業 P. 4～P. 7
- 3 臨床仏教研究所運営事業 P. 7～P. 10
- 4 出版事業 P. 10～P. 11

II 表彰事業（公益目的事業2） P. 11～P. 12

III 災害支援事業（公益目的事業3） P. 12～P. 13

IV 管理 P. 13

事業報告書付属明細書 P. 14

平成28年度事業報告

(平成28年4月1日～平成29年3月31日)

I 教化事業（公益目的事業1）

仏教精神に基づき青少年をはじめとするすべての人々の心身と人格の健全な向上を図る事業

1 青少年健全育成推進事業

（1）仏教子ども会活動の推進事業

①花まつり行事の推進、助成

加盟教団及び府県地区青少年教化協議会（略称・青少協）に対して、花まつり行事の推進を図った。

②成道会全国こども大会の開催推進

平成28年12月8日前後の日曜日を中心に全国約50会場で開催した。

※参加者＝約10,000名（うち児童約6,000名）

※行事＝記念式典（法要・法話等）、お楽しみ会（童話、ゲーム、映画、パネルシアター、紙芝居、人形劇）等多彩な行事が各地で開催された。

※教材助成＝成道会用リーフレット（B6判、多色刷り）、成道会ポスター（A2判、多色刷り）、シャープペンシル（読売新聞社、日本テレビ放送網株式会社からの助成品）を送付、各開催会場の責任者から参加児童に手渡された。

※後援＝読売新聞社、日本テレビ放送網株式会社

（2）青少年教化研修会等の開催事業

①平成28年度指導者研修会「子ども食堂の作り方」

※日時＝平成28年12月9日（金）

※会場＝東京都港区・曹洞宗檀信徒会館（東京グランドホテル）

※講師＝松本 智量氏（八王子子ども食堂・延立寺住職）・大学生3名

※目的＝寺院住職と運営主体の大学生を講師に迎え、お寺と地域社会の協働による子ども食堂の作り方について学んだ。

②被災地子ども支援フォーラムの開催

震災から丸6年経ち、何が変わって、何が変わらないのか、自分の眼とところで確かめてみるために、基調講演、パネルディスカッションをはじめとしたフォーラムを開催した。

※日時＝平成28年10月22日（土）～24日（月）

※会場＝福島県エスパル福島 他

※基調講演＝シンシア・ホワイト氏

（NPO法人Kids Hurt Too創設者・エグゼクティブディレクター）

※演題「被災した子どものグリーフケア ～今、私たちにできること～」

※DVD上映会＝「今、伝えたいこと」他（福島県立相馬高等学校放送局制作）

※パネルディスカッション＝成井 香苗（NPO法人ハートフルハート未来を育む会理事長・臨床心理士）

鈴木 彩（チャイルドラインこおりやま理事）

渡部 義弘（元福島県立相馬高等学校放送局顧問）

相馬高等学校卒業生

コメンテーター＝シンシア・ホワイト（NPO法人Kids Hurt Too創設者）

モデレーター＝神 仁（当会主幹）

※分科会＝ ①子どものトラウマ・グリーフケア

②子どもたちのダイバーシティ（多様性）

③子どもたちからの未来への提言（メッセージ）

④持続可能な組織運営を目指して

⑤アウトリーチプログラム

⑥オンライン相談の可能性

※福島県沿岸部被災地スタディツアー～原発周辺と子ども支援の現場を訪ねる～

※共 催＝NPO法人チャイルドライン支援センター

（３）青少年支援ネットワーク拡充事業

①青少年教化活動の調査・情報収集及び発信とNPO（市民団体）との活動連携

１）青少年教化活動者の活動内容の調査、情報収集

日曜学校等、青少年教化活動を行っている寺院の活動状況を聞き取り調査をした。

２）青少年を対象にした活動及び研究に関する情報収集

青少年問題に関する情報を広く収集するとともに、他団体が主催する青少年関係の研修会等にも参加し、その活動内容を把握した。又、加盟教団等の不登校・ひきこもり関連団体に関する情報収集を行った。

３）仏教団体、仏教系大学サークルの情報収集と活動の連携

青少年に関する活動を行っている仏教団体、仏教系大学の児童研究会等と連絡を取り、情報交換を行い、連携事業の展開に向けて検討を行った。

４）子ども支援系NPO等との情報交換及び活動の連携

「認定非営利活動法人チャイルドライン支援センター」「公益社団法人シャンティ国際ボランティア会」をはじめ、青少年の健全育成や子育て支援について活動を行っているNPO、NGO、社会福祉協議会等との情報交換を促進し、活動の連携を行った。

②府県・地区青少年教化協議会及び活動寺院・団体等との活動連携

１）「府県・地区青少年教化協議会代表者会議」の開催

本会と青少協との情報交換、教化活動の推進を図るため、代表者会議を開催した。

※日 時＝平成28年6月21日（火）

※会 場＝東京都港区・曹洞宗檀信徒会館（東京グランドホテル）

※テーマ＝「各青少協の活動報告、今後の各青少協の活動とあり方について」

２）活動協賛

第12回「ほとけさまの絵コンクール」の後援及び協賛

大阪青少年教化協議会が主催する「ほとけさまの絵コンクール」を後援し、併せて協賛した。

※公募期間＝平成28年12月～29年2月

※応募総数＝約500点

※選考委員＝久保田 聖淳氏他

※入 賞＝最優秀賞他13点

※主 催＝大阪青少年教化協議会

※後 援＝大阪市仏教会／全国青少年教化協議会 他

3) よみうりランド仏舎利法要開催への協力

協力企業の株式会社よみうりランドが主催して毎年開催されている「仏舎利法要」に対して、役職員等が出
仕し、同聖地公園にて法要を執り行った。

※日 時＝平成28年5月27日（金）

※会 場＝よみうりランド聖地公園（東京都稲城市）

③加盟教団等との活動提携、連携

加盟教団等からの要請に応じて講師を派遣し、講演・ワークショップを行った。又、必要に応じて資料の提供
や情報交換を行い、加盟教団等の主催事業に参加・協力した。

1) 「現代教化法研究協議会」（加盟教団教化部門代表者会議）の開催

加盟教団等に広く呼びかけ、これまでの教化活動を振り返りながら現代的課題に即した教化を推進してい
くべく会議を開催した。各宗派からの教化事例発表を受けて、少子高齢化や寺院の檀家離れ等、諸相のな
かで現代に即した教化活動の方法について議論を深めた。

第1回

※日 時＝平成28年5月25日（水）

※会 場＝念法眞教総本山金剛寺

※報 告＝念法眞教・融通念佛宗

第2回

※日 時＝平成29年1月17日（火）

※会 場＝日蓮宗宗務院

※報 告＝日蓮宗

2) 講師派遣

平成28年5月10日（火） 浄土宗東京教区児童教化連盟研修会（東京都）

平成28年6月28日（火） 特別養護老人ホームよみうりランド花ハウススタッフ研修（東京都）

平成28年7月13日（水） 大正大学講座「文化の探求・詠唱実習」（東京都）

平成28年7月21日（木） 日本仏教保育協会夏期保育講習会（東京都）

平成28年9月8日（木） 日蓮宗現代宗教研究所第49回中央教化研究会議（東京都）

平成27年10月22日（木） 上智大学グリーンケア研究所公開講座（東京都）

平成28年10月30日（日） 総本山知恩院おてつぎ運動推進50周年記念大会（北海道）

平成28年10月5日（水） 東京慈恵会医科大学大学院看護学科講習会（東京都）

平成28年10月17日（月） 真言宗豊山派茨城県第二号支所布教師研修会（茨城県）

平成28年12月15日（木） 真如育英会インド青年・日本文化研修講習会（東京都）

平成29年1月19日（木） 国立ガン研究センター緩和ケア講習会（東京都）

平成29年2月9日（木） 向島仏教会講習会（東京都）

3) 加盟教団・関係諸団体主催式典及び学会等への参加及び協力

平成28年4月27日（水） 社会福祉法人いのちの電話理事会・評議員会（東京都）

平成28年5月11日（水）	第257世天台座主傳燈相承祝賀会（京都府）
平成28年5月20日（金）	浄土宗滋賀教区児童教化連盟研修会（滋賀県）
平成28年7月26日（火）	第50回曹洞宗青少年書道展表彰式（東京都）
平成28年8月1日（月）	社会福祉法人全国社会福祉協議会広がりボランティアの輪総会（東京都）
平成28年8月4日（木）	第29回比叡山宗教サミット（滋賀県）
平成28年8月26（金）～28日（日）	仏教看護ビハーラ学会年次大会（京都府）
平成28年8月30日（火）	公益社団法人シャンティ国際ボランティア会理事会（東京都）
平成28年7月26日（火）	第50回曹洞宗青少年書道展表彰式（東京都）
平成28年9月17日（土）	平成28年度第1回緩和ケア多施設連絡会議（東京都）
平成28年11月10日（木）	厚生労働省児童虐待防止対策協議会（東京都）
平成28年11月15日（火）	一般社団法人アジア南太平洋友好協会年次総会（京都府）
平成28年11月23日（水）	孝道教団開顕80周年記念祝賀会（神奈川県）
平成28年12月3日（土）～4日（日）	第25回日本仏教教育学会学術大会（愛知県）
平成28年12月10日（土）	平成28年度第2回緩和ケア多施設連絡会議（東京都）
平成29年1月10日（火）	日蓮宗御用始め（東京都）
平成29年1月23日（月）	公益社団法人日本仏教保育協会新年懇親会（東京都）
平成29年1月30日（月）	公益財団法人全日本仏教会新年懇親会（東京都）
平成29年2月26日（日）	池上本門寺朗子クラブ設立50周年記念式典（東京都）
平成29年2月6日（月）	公益社団法人全日本仏教婦人連盟修正会（東京都）
平成29年3月10日（金）・11日（土）	全日本仏教青年会全国大会・東日本大震災七回忌法要（宮城県）
平成29年3月23日（木）	ダルマチャクラ・スクール理事会（東京都・インド）
平成29年3月27日（月）	社会福祉法人いのちの電話理事会・評議員会（東京都）
平成29年3月29日（水）	チャイルドライン支援議員連盟総会・学習会（東京都）

（４）教化活動広報事業

①インターネットによる情報収集及び発信

公式ホームページやブログ、フェイスブック等各種ソーシャルメディアを利用して青少年問題や活動者に関する情報を収集し、全青協の活動情報と合わせて情報の発信を行った。

②ＴＶ番組の企画協力

現代人に心の安らぎを提供することを目的に、関係テレビ局が企画制作を進める4K対応の新番組に対して情報提供等を行い制作へ向けての協力を行った。

③「Web現代名僧墨蹟展」の運営

伝統仏教各宗派管長、大本山貫首をはじめとする高僧・名僧、又、茶道家元ら文化人より寄せられた書画作品をホームページ上に掲載し、広く一般の人々が心の安らぎや豊かさを感じ得できるよう試みた。

２ 公益活動推進事業

（１）てらネットEN関連事業の実施

①不登校・ひきこもり当事者の家族を対象とした親学セミナーの開催

「寺子屋ふぁみりあ～ひきこもり状態にある当事者の家族（親）のためのセミナー～」

全国に１００万人いるともいわれるひきこもり当事者。全青協はこれまでひきこもりや不登校の問題に継続的に取り組んできたが、平成２２年度からは、ひきこもり当事者の家族（親）に向けてのセミナーを実施している。セミナーでは現場経験が豊富で専門的な知識を有する講師を招いての講義、又、仏教的な体験を通じて精神的な安定が得られるように、読経や法話、慈悲の瞑想などを行っている。そして参加者同士によるグループトークの時間を設け、相互の心情に共感することで各自の孤立感を軽減している。今年度も引き続き、浄土真宗本願寺派「御同朋の社会をめざす運動」東京教区委員会との共催により平成２８年５月より月１回の頻度で全１１回開催した。

※会 場＝築地本願寺（東京都中央区）

※主 催＝本財団、浄土真宗本願寺派「御同朋の社会をめざす運動」東京教区委員会

第１回：平成２８年５月１２日（木）

○演 題「本当のしあわせ」

○講 師 柳川 眞理子（「自死・自殺に向き合う僧侶の会」元代表）

第２回：平成２８年６月２日（木）

○演 題「実例から学ぶ長期ひきこもりからの脱出～その準備と実践～」

○講 師 石川 清（ひきこもり訪問サポート士）

第３回：平成２８年７月７日（木）

○演 題「平和を願い 平和に生きる」

○講 師 和田 重良（ＮＰＯ法人くだけけ会主宰）

第４回：平成２８年８月４日（木）

○演 題「OBON de TALK」

○講 師 浄土真宗本願寺派僧侶・臨床仏教師

第５回：平成２８年９月１日（木）

○演 題「人生に、道はあるのでしょうか？」

○講 師 艸香 雄道（浄土真宗本願寺派西蓮寺住職）

第６回：平成２８年１０月６日（木）

○演 題「なぜ私たちは引きこもりから抜け出せたのか」

○講 師 ひきこもり経験のある青年２名

第７回：平成２８年１１月１０日（木）

○演 題「聴くことから始まるコミュニケーション」

○講 師 神 仁（当会主幹）

第８回：平成２８年１２月１日（木）

○演 題「若者の声を代弁する」

○講 師 須永 祐慈（「ストップいじめ！ナビ」副代表理事）

第９回：平成２９年１月１２日（木）

○演 題「仏さまのまなざし」

○講 師 大江 宏玄（浄土真宗本願寺派敬覺寺副住職）

第１０回：平成２９年２月２日（木）

○演 題「ひきこもりから当事者支援者へ そして両親の介護者として」

○講 師 池田 太郎（元当事者＆支援スタッフ）

第11回：平成29年3月3日

○演 題「お坊さんたちと語る会」

○講 師 臨床仏教師・浄土真宗本願寺派僧侶

②「寺子屋ふぁみりあ」のブログ及びホームページの運営

ひきこもり状態にある当事者の家族向けのセミナー「寺子屋ふぁみりあ」の講演内容等を広く一般に発信し、この問題についての啓発を図るとともに、参加者以外の同じ問題を抱える家族（親）が認識を共有し、問題解決・軽減の一助となることを期してホームページを運営した。

③就労支援プログラムの実施

「ご縁つながり隊」の運営

ひきこもりやニートの当事者が社会参加するための足がかりとして、就労支援活動を行った。

※日 時＝平成28年5月より週1日程度

※会 場＝全青協事務局

※内 容＝機関誌『ぴっぱら』の発送作業等の軽度な作業及びPCを使った事務作業をしながら、当事者が他の当事者や本財団職員と会話を交わすことで、コミュニケーション能力及び作業スキルの向上を目指す。

④相談窓口の設置・運営

1) 不登校やひきこもり、自死念慮等、青少年やその家族が抱える悩みに対応すべく、全青協内に電話相談窓口を開設し、当事者や家族に対してカウンセリングを行った。又、併せて電話相談窓口の開設を希望する青年僧をOJT形式の研修方法により育成した。

2) こころの相談室の運営

全青協内に不登校や非行、ひきこもり、精神疾患等の悩みを抱える当事者やその家族を対象とした来所相談室を開設。通常の電話相談では対応できない場合等に随時面接を行った。

3) 貧困母子家庭児童および自死遺児支援プログラムに関する調査

子どもを持つ家庭の貧困率上昇や近年の自殺者の増加傾向に伴い、貧困家庭児童及び自死遺児支援プログラムに関して継続的に調査を行った。特に被災地における現状の把握に務め、あおぞら奨学基金をはじめとする支援活動につなげた。又、不登校やひきこもり、自死念慮、児童虐待、DV、発達障害他、青少年や親等が直面する多様な問題に対して仏教情操教育をベースに当事者をサポートする「子ども家庭支援センター（仮称）」の開設に向けて調査を行った。

⑤浄土宗ともいき財団「心といのちの電話相談室」開設事業協力

浄土宗ともいき財団が「心といのちの電話相談室」を開設するにあたり、企画、運営、研修に関して協力を行った。

※開設日時＝平成28年4月1日（金）～（毎週月・金曜日午前10時～午後4時）

※会 場＝東京都港区・明照会館内

⑥てらネットENパンフレット・小冊子の配布

てらネットENでは、ひきこもりの問題について正しい理解がなされて支援の輪が広がり、寺院等において

は当事者や家族からの相談に対して適切な対応をするための一助となり得ることを期して、ひきこもりに関する基礎的な知識や対処法等を掲載した小冊子を、加盟教団・青少協・不登校ひきこもり支援団体等の要請に応じて配布した。

(2) 「ぴっぱら国際児童基金」の運営

公益社団法人全日本仏教婦人連盟と共同で、ワラナシ（ベナレス）等におけるストリートチルドレンやスラムにて暮らす子どもたちを対象に、チャイルドサポーター（里親）制度の運営（48人の支援）を行った。又、サルナートにおける無料診療所の運営、被虐待児童のシェルターの運営他、北部ラダックにおいても、教育を受けることのできない遊牧民の子どもたち等を対象に、教育・福祉・医療の面で支援を行った。また、サルナート・ダルマチャクラ・スクールの図書室及びパソコンルームを増設した。

3 臨床仏教研究所運営事業

(1) 第2期・3期臨床仏教師養成プログラム

—仏教師は現代社会のなかで人びとのこころにどのように寄り添うことができるのか—

平成25年度から現代社会の生老病死にまつわるさまざまな苦悩と向き合い、専門的な知識や実践経験をもとに行動する臨床仏教師を養成するプログラム〈座学（公開講座）⇒ワークショップ⇒実践研修（OJT）〉を実施している。

①第2期 臨床仏教師養成プログラム

1) OJT（臨床実習）課程（On the Job Training、半年の期間内に100時間以上の実践研修）

臨床仏教師養成プログラムの座学（公開講座）・ワークショップ課程を平成27年度に修了し、考査を経た受講者が平成28年4月より6カ月の期間内に100時間以上の臨床実習を行った。

2) 台湾特別実習

国立台湾大学附属病院緩和ケア病棟において、臨床仏教師を目指す実習生を対象とした30時間の特別実習を行った。また、希望者を対象に慈済会病院緩和ケア病棟の視察も行った。

※平成28年6月5日（日）～6月9日（木）

3) 第2期 OJT実習フォローアップ研修（対話記録セッション）

※日 時＝平成28年11月17日（木）

※会 場＝東京都中央区・築地本願寺 門法ホール

※講 師＝神 仁（臨床仏教研究所上席研究員）

4) 第2期臨床仏教師認定

平成28年11月28日（月）に最終考査を実施し、第2期臨床仏教師5名の認定者が決定した。

5) 第2期臨床仏教師認定式並びに記念講演会の開催

平成28年11月に認定された5名の臨床仏教師の認定式並びに日本での仏教と医療の連携をテーマとした記念講演会を開催した。

※日 時＝平成29年3月30日（木）

※会 場＝東京都港区・曹洞宗檀信徒会館（東京グランドホテル）

※講 師＝大井 玄氏（東京大学名誉教授）

※演 題＝「看取り医がブッダに学んだこと」

②第3期 臨床仏教師養成プログラム

1) 座学（臨床仏教公開講座）開催

「自死防止」「ターミナルケア」「青少年の問題行動・ひきこもり」「過疎化・孤立化」「災害と仏教」等、現代社会における臨床的テーマを取り上げ、10月より原則隔週にて全10回の連続公開講座を開催した。

※会場＝東京大学青年会会館（東京都文京区）

第1講：平成28年10月12日（水）

○演題 「“宗教”と“医療”のはざまで ―ターミナルケア―

○講師 田中 雅博・田中 貞雄（医療法人普門院診療所・僧医）

第2講：平成28年10月26日（水）

○演題 「こころ、社会、仏教 ―エンゲイジド・ブディズム―

○講師 蓑輪 顕量（東京大学大学院教授）

第3講：平成28年11月9日（水）

○演題 「スピリチュアルケア ―魂の声を聴く―

○講師 窪寺 俊之（聖学院大学大学院客員教授）

第4講：平成28年11月30日（水）

○演題 「看護ケア―「寄り添う」とは？―

○講師 藤澤 雅子（淑徳大学短期大学部教授）

第5講：平成28年12月7日（水）

○演題 「子どもたちに輝く瞳を ―国際子ども支援―

○講師 古宇田 亮順（パネルシアター創案者）

第6講：平成28年12月21日（水）

○演題 「いのちへの問い ―平和活動・原発問題―

○講師 山崎 龍明（武蔵野大学名誉教授）

第7講：平成29年1月11日（水）

○演題 「貧困化する子どもたち ―「子ども食堂」の現在―

○講師 酒井 義一（存明寺住職・ぞんみょうじこども食堂主宰）

第8講：平成29年1月25日（水）

○演題 「痛みに応える ―緩和ケアとチーム医療―

○講師 下山 直人（東京慈恵会医科大学緩和ケア診療部長）

第9講：平成29年2月8日（水）

○演題 「仏教社会福祉 ―自己利他への眼差し―

○講師 石川到覚（大正大学名誉教授）

第10講：平成29年2月22日（水）

○演題 「臨床仏教師の現代的使命」

○講師 ジョナサン・ワッツ（臨床仏教研究所研究員）・神 仁（臨床仏教研究所上席研究員）

（2）臨床仏教師フォローアップ研修の開催

第1回：平成28年9月26日（月）

※会場＝東京都港区・仏教伝道センタービル（BDK会議室）

※講師＝大河内 大博氏（臨床仏教研究所特任研究員）

神 仁（臨床仏教研究所上席研究員）

第2回：平成29年3月31日（金）

※会 場＝東京都港区・曹洞宗檀信徒会館（東京グランドホテル）

※講 師＝千石 真理（臨床仏教研究所特任研究員・心身めざめ内観センター主宰）

神 仁（臨床仏教研究所上席研究員）

（3）臨床仏教公開研究会「現代米国における仏教チャプレンシー」の開催

※日 時＝平成28年4月19日（火）

※会 場＝東京大学青年会会館（東京都文京区）

※主 催＝全国青少年教化協議会・臨床仏教研究所

※基調発題＝古村 文伸 氏（ペンシルバニア大学病院）「米国仏教チャプレン教育の実際」

ジョナサン・ワッツ（臨床仏教研究所研究員）「米国仏教チャプレン教育の現状について」

※コメント&ディスカッション＝

コメント1 島 蘭 進 氏 （上智大学）「臨床宗教教育の視点から」

コメント2 窪寺 俊之 氏 （聖学院大学）「米国のCPEからの視点から」

コメント3 蓑輪 顕量 氏 （東京大学）「エンゲイジド・ブディズムの視点から」

モデレーター 神 仁 （臨床仏教研究所上席研究員）

総合司会 大河内 大博 （臨床仏教研究所特任研究員）

※参加者数＝51名

（4）臨床仏教公開シンポジウム「“いのちのケア”を考える」の開催

※日 時＝平成28年9月15日（木）

※会 場＝京都大学稲盛財団記念館（京都市左京区）

※主 催＝全国青少年教化協議会・臨床仏教研究所

※共 催＝京都大学こころの未来研究センター

※パネリスト＝大井 玄 氏 （東京大学名誉教授・ターミナルケア）

丹治 光浩 氏（花園大学学長・臨床心理）

高木 慶子 氏（上智大学グリーフケア研究所特任所長・グリーフケア）

※コメンテーター＝カール・ベッカー氏（京都大学こころの未来研究センター教授・死生学）

※参加者数＝100名

（5）臨床仏教師（仏教チャプレン）資格認定制度に関する調査

今年度も引き続き、教育・福祉・医療等の臨床現場において、仏教精神に基づいた心理的・精神的ケアを行うことのできる臨床仏教師の資格認定制度運営に関する国内外での調査・準備を進めた。主要な病院等を訪問し、情報交換するとともに、臨床仏教師の活動の場を開拓することに努めた。

平成28年5月7日（土） 熊本市立熊本市民病院（熊本県）

平成28年5月10日（火）厚生労働省（東京都）

平成28年5月30日（月）国立がん研究センター中央病院（東京都）

平成28年5月30日（月）国立がん研究センター中央病院（東京都）

平成28年6月15日（水）東京慈恵会医科大学病院（東京都）

平成28年6月24日（金）国立がん研究センター中央病院（東京都）
 平成28年7月6日（水）東京慈恵会医科大学病院（東京都）
 平成28年7月8日（金）駒場カウンセリングクリニック（東京都）
 平成28年7月12日（火）普門院診療所（栃木県）
 平成28年8月9日（火）東京医科歯科大学付属病院（東京都）
 平成28年10月3日（月）四国がんセンター（愛媛県）
 平成28年10月18日（火）東京医科歯科大学付属病院（東京都）
 平成28年12月3日（土）岐阜県ふれあい福寿会館（岐阜県）

（6）「生と死を見つめる集い」の開催

がん患者・高齢者等を対象に、生と死にまつわる苦しみを見つめ分かち合うためのセミナー「生と死を見つめる集い」を全8回開催。

※日 時＝平成28年4月より9月まで毎月1回開催及び11月22日（火）・平成29年1月24日（火）・3月28日（火）

※会 場＝築地本願寺（東京都中央区）

（7）臨床仏教研究所 公式ホームページ等による情報発信

臨床仏教研究所のホームページ、ブログ・フェイスブック等各種ソーシャルメディアと連動して講座内容、調査報告、プログラム運営等に関して情報の発信を行った。

4 出版事業

（1）機関誌『ぴっばら』の発行状況

① 月別発行部数

月	部数	月	部数	月	部数	月	部数	月	部数	月	部数	平均発行部数
5-6	5,500	7-8	9,000	9-10	6,200	11-12	5,700	1-2	6,100	3-4	6,700	6,530部

②『ぴっばら』「特集」テーマ一覧

月	テ ー マ
5-6	0歳のいのちを守れ！ —— “望まない妊娠”をどう支えるか
7-8	男の子がわからない…？ ——ハッピーな親子関係のために
9-10	カラダとココロの違和感を超えて —— “性的マイノリティ”の若者の今
11-12	子どもの「居場所」とbeingのこと ——心の育ちを支えるもの
1-2	「幸せでしょう」と言わないで ——母たちのSOSと“産後うつ”
3-4	いじめ社会をなくそう —— モンスターを生み出さないために

(2) 書籍・教材発行と調査及び研究、広報

青少年向けの各種教材を発行。花まつり用ぬりえ、シール、風船、ポスター及び甘茶クッキー等を頒布した。

①教材等の製作

A) 甘茶クッキー

甘茶クッキーを「おかし屋ぱれっと」（障がい者の自立支援を行うNPO法人）と共同開発し頒布した。

②書籍・教材の調査及び研究

今後の出版事業につないでいくために、青少年関係の出版物並びに教材等を調査・研究した。

③出版物・教材の広報活動

出版物は会員以外への販路を開拓するべく、頒布活動に力を入れ、教材は成道会、お盆、花まつりをはじめとして、あらゆる機会を利用して、DM、チラシ等で広報した。

Ⅱ 表彰事業（公益目的事業2）

青少年の健全育成に尽力し、社会の情操教育振興に功績のあった個人及び団体を表彰する事業

(1) 『正力松太郎賞』の実施

仏教精神に基づき、長年にわたって青少年の宗教情操の育成に尽力して顕著な実績をあげ、今後も活躍が期待される個人・団体を表彰した。

①「第40回正力松太郎賞」の表彰

※受賞者

(本 賞)

○五位堂安養日曜学校

〔代表・中村 勝胤 氏／浄土宗寶樹寺住職／奈良県香芝市〕

○袴田 俊英 氏

〔曹洞宗月宗寺住職／秋田県藤里町〕

(青年奨励賞)

○久間 泰弘 氏

〔曹洞宗龍徳寺住職／福島県伊達市〕

(児童教化功労賞)

○薬師寺青少年の為の寺子屋

○金峯山青年僧の会 三日ぼうず体験

○総本山知恩院おてつぎ運動本部 サラナ親子教室

○一絃須磨琴保存会

○曹洞宗青少年書道展

○龍谷大学学友会宗教局

※後 援＝読売新聞社、日本テレビ放送網株式会社、株式会社よみうりランド

※表彰式＝平成28年5月31日（火）

※会 場＝東京都港区・曹洞宗檀信徒会館（東京グランドホテル）

②「第41回正力松太郎賞」の公募と受賞者の決定

平成28年9月公募開始、同年12月15日締め切り

※選考会日時＝平成29年3月14日（火）

※選考会場＝東京都港区・曹洞宗檀信徒会館（東京グランドホテル）

※受賞者

（本 賞）

○教覚寺少年会

〔代表・南荘 宏 氏／浄土真宗本願寺派教覚寺住職／静岡県静岡市〕

○認定NPO法人 れんげ国際ボランティア会

〔代表・川原 英照 氏／真言律宗蓮華院誕生寺貫主／熊本県玉名市〕

（青年奨励賞）

該当者なし

※後 援＝読売新聞社、日本テレビ放送網株式会社、株式会社よみうりランド

※表彰式＝平成29年6月1日（木）

※会 場＝東京都港区・曹洞宗檀信徒会館（東京グランドホテル）

（2）優秀表彰の実施

情操教育を目的とした書道・絵画等を通じ優秀な成績をおさめた児童・生徒への表彰、又、青少幼年の健全育成に貢献した個人及び団体を表彰した。

- ・曹洞宗主催「第40回青少年書道展」を後援、全青協賞を授与。
- ・大正大学書道研究部主催「第65回全国書道展」を後援、全青協賞を授与。
- ・炎天寺一茶まつり委員会主催「平成28年度全国小中学生俳句大会」を後援、全青協賞を授与。

Ⅲ 災害支援事業（公益目的事業3）

国内外の自然災害に際する緊急支援及び復興支援を行う事業

（1）東日本大震災復興支援事業

仙台災害支援センター等を拠点として、被災地の方々、特に子どもたちや高齢者の方々のニーズに応えるべく、精神的なケアにつながる支援を主とした活動を行った。

①高齢者の孤独死・自死防止活動

被災地の仮設住宅を定期的に巡回しながら、集会所や談話室でハーブティーサロンや生け花会などを開催、又スタッフによる歌のコンサート、バレーンアート等の催し物を行い、孤立しがちな高齢者の心身のケアに継続的に取り組んだ。

②被災児童を対象とするトラウマケア活動

仮設住宅や学童保育会場等で子ども会を開催しながら、被災児童の心の状態の把握に努め、遊びやレクリエーションを通じたトラウマケア活動に取り組んだ。

③「あおぞら奨学基金」の運営

平成24年度に一般財団法人杉浦ブラムチャリヤ、公益社団法人全日本仏教婦人連盟と協働して「あおぞら奨学基金」を設立。東日本大震災で公的な支援の狭間にあって就学困難な状況にある高校生のための給付型奨学金支給事業を基金事務局として運営を行った。今年度は宮城県・岩手県・福島県の公立高校を中心に371名に月々1万円の奨学金を給付した。

(2) 国内外緊急支援事業

①広島土砂災害緊急支援事業

平成26年8月に発生した土砂災害における被災者支援として、被災児童のトラウマケアを中心としたこころのケアスタッフを養成し、ひろしまチャイルドラインと協働して広島県内の子どもたちを対象としたフリーダイヤルによるこころの電話相談窓口を平成26年度に開設し、今年度も引き続きカウンセリングを行った。又、平成28年8月に宮島大聖院にて梅林小学校・八木小学校の被災児童を招待し、宮島てらこやと共催で子ども会キャンプを開催した。

②熊本大地震緊急支援

平成28年4月に発生した熊本大地震における被災者支援として、東日本大震災での支援活動に基づきつつ、現地のボーイスカウトやチャイルドライン等のNPO・NGOと協働し活動をした。

1) ボーイスカウト熊本連盟と協働しての物資の緊急支援（平成28年4月・5月）

2) 子どものトラウマ&グリーフケア緊急講座

※平成28年5月6日（金）：鹿児島県鹿児島市／5月8日（日）：福岡県福岡市

3) 避難所・仮設住宅を巡ってのこころのケア活動（平成28年4月から現在）

IV 管理

(1) 組織の充実・拡充

理事会及び評議員会、青少協代表者会議の席上、会員拡充への協力を依頼した。又、各宗派の研修会等において全青協の資料を配布し入会案内を行った。会員数は平成29年3月末日現在、825名。内訳は「会員」338名、「活動会員」254名、「賛助会員」208名、「特別賛助会員」25名。

平成２８年度事業報告付属明細書

平成２８年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第３４条第３項に規定する付属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。

平成２９年３月

公益財団法人 全国青少年教化協議会